

照屋自治会紹介

1. 自治会・公民館の概要

(1) 照屋の概要

照屋は方言でテイーラといいます。照屋集落は南風原町の南部地区に位置し、津嘉山集落から南城市大里に抜ける県道128号線、ならびに町役場から八重瀬町へ抜ける県道82号線に面しています。さらに照屋の南側には沖縄自動車道の南風原南インターがあり、また西側には国道507号バイパスの一部開通もあって、交通の便に恵まれ共同住宅も立ち並び、人口増加地域でもあります。照屋の集落は南星中学校東側に隣接し、戦後までサトウキビ栽培も盛んでしたが、現在生産者も少なくなっています。また、琉球絃の盛んな地域でもあり、後継者に脈々とその技術が受け継がれています。現在の公民館は、照屋コミュニティセンターとして床面積平屋RC造292.9㎡(88.8坪)で昭和61年に着工し、62年7月に完成し各種団体が活用し、活動の拠点として利用され区民に親しみ喜ばれ現在に及んでいます。

(2) 自治会内の各団体

照屋PTA・照屋幸の会(老人クラブ)・照屋青年会・照屋女性会、照屋小地域福祉ネットワーク・照屋区伝統芸能保存会・照屋体協

2. 行事紹介(年間活動)

- (1) 常会(区民総会)・・・常会は字の最高機関で世帯の代表で構成し、区長が必要に応じ開催することが出来る。
- (2) 照屋区新年会・・・毎年1月に照屋区新年会を開催し、多くの区民が一同に集い昨年を振り返り新しい年に向けての抱負を語り、区民の健康祈願、地域の更なる発展、行事等いろいろな話し合い1年間のスタートの場となる。
- (3) 照屋区民ピクニック・・・さとうきびの収穫作業を終えた頃の4月に行ない、朝から出発し北部まで足を運び、夜はレストランに於いてカラオケ大会を行ないながら親睦で行い大いに盛り上がる。
- (4) 敬老会・十五夜遊び・・・毎年9月～10月に開催している。参加者は100名を超えコミュニティセンター内に席がなく外まで立ち見が出来るほど盛り上がる。敬老会の招待者は73歳以上で、照屋区の行事で一番の参加者が多く大きな盛り上がりを見せ
- (5) 照屋区民スポーツ大会・・・6月の集落内一斉共同清掃作業を午前中で終了し午後から多くの人に参加しやすいグラウンドゴルフ大会を開催している。
- (6) 集落内一斉共同清掃作業・・・6月と12月の年2回集落内の一斉作業を各世帯より1名参加し行なう。

コミュニティセンターの利用状況

- (1) 三線サークル・・・毎週火・木・土 午後8時～10時
- (2) 琉舞サークル・・・毎週火曜日 午後2時30～4時30
- (3) 大正琴・・・・・・・・・・毎週金曜日 午後8時～10時
- (4) 小地域福祉ネットワーク事業・・・毎週木曜日 午前10時～12時

「照屋区綱曳き復活事業」

照屋部落では平成 21 年に 17 年ぶりに青年会を発足し多くの活動を行なっております。これまでの青年は体協への行事参加が主な地域活動でしたが、これに加え地域清掃や伝統行事にも積極的に参加し、平成 22 年に 20 年ぶり「綱曳き復活事業」と称し、老若男女が集まり地域一丸となって盛り上がる場を作りたい・・・と地域の「核」、若い人たちがチャレンジ精神に燃えております。このようなことは地域を元気づける最も大事なことであり、綱曳き事業が活気ある照屋部落の地域へつながり、発展に役立てる「綱曳き復活事業」と致します。

照屋区伝統芸能保存会

1. 目 的

踊り手や地謡の後継者が少なく、後輩への指導が心配されていたが、昨年、字出身で芸能の指導的立場にある方々が保存会結成を呼びかけ、今後の町祭りや字祭りを参加目標に老若男女をとわず会員を構成し、今後の努力によって照屋区の伝統芸能を継承発展させる事を目的とし、その事が各自、各家庭、将来の幸せづくりに効果をもたらすと考えます。

2. 専 門 部

(1) 三線の部 (2) 二才踊り (湊くり節) の部 (3) 若衆踊りの部 (4) 琉球舞踊の部 (5) 棒踊りの部 (6) 綱曳き棒の部 (7) 綱曳き唄の部

照屋区合同祝賀会

合同祝賀会が平成 23 年 12 月 3 日町立中央公民館で開かれた。三つの快挙を 220 人の区民がかけつけ「区の大きな荣誉であり、誇り。今後の地域づくりになる」と喜び、祝賀会にはかぎやで風など余興が花を添えた。

1. 首里城祭出演

平成 23 年 10 月 29～30 日の 2 日間照屋区の伝統文化財・舞方棒などが首里城祭には招待され、総勢 27 人が出演した。かぎやで風の曲にあわせて十文字の動きなどが特長の舞方棒は大きな拍手を浴びた。

2. 平成 23 年 10 月に日本一に輝いたプロ野球の福岡ソフトバンクに指名された、地元の南星中学校出身 (新崎慎弥)、興南高校から日本文理大に進み、内野手として活躍したことが認められ、今後が期待されております。

3. 7 月の「海の日」にちなんだウォーターフォトコンテストで応募作品の総数が 689 点となり、平成 23 年 10 月 20 日に厳正なる審査をした結果、「塩屋のウンガミ (海人祭)」が日本港湾協会会長賞に大城光雄さんが入選されました。